

かみ し ぜ ん ひ と
神さま、自然、人

えんちやう こうち たかし
園長 高地 敬

かなり前に『木を植えた人』というフランスの短編小説がありました。
あれたとち だま う つづ ひ と り おとこ はなし
荒れた土地にドングリを黙って植え続ける一人の男の話でした。

どんな状況の中でも黙ってコツコツ働く。荒れ地が少しずつ林にな
っていく。それはもちろん人のためになるのですが、黙って植え続けると
ころに意味があるのでしょうか。ほめられるためにしているのではない
し、お金のためにもしていない。人のためにだけ生きるということでは
うか。または、自然にひたすら関わり続けることが大事なのだと言ってい
るのでしょうか。当初この小説は実話をもとにしているということだった
のですが、その後、これは全くのフィクションだということで、みんなが
っかりしたのだと思います。

さて、先日、奈良県の宗教者フォーラムというものに行ってきました。
ねんつづ べんきやうねっしん おも
20年続いているそうで、ずいぶん勉強熱心なのだと思います。

今回は「～信仰の杜(もり)を伝える～」というテーマで榎原神宮で開かれ、
ほんでん ちか い せかいへいわきがんさい で ご かいかん
本殿のすぐ近くまで行って「世界平和祈願祭」に出て、その後、会館でフォー
ラムがありました。

伊勢神宮の背後の山を管理してきた方の講演、その次に榎原神宮の方の
「太古の信仰の山を守る」というお話、そして、春日大社の宮司さんの「山
を削らず木を切らず」、「神のために木を植える(能『采女(うねめ)』)」という
お話がありました。そこには人や社会とのつながりはあまり見えてきませ
んが、人のためというより神さまのために自然があり、その中で人間も生き
ているという信仰が示されていました。神さまのもとにある自然と人間との
つながりをいつも意識している。大切な信仰を教えてくださいました。